

2021.8.21

説教「争いがなくなるまで」松村光司

聖書 創世記 26章 15-25節

26:15 ペリシテ人は、昔、イサクの父アブラハムが僕たちに掘らせた井戸をことごとくふさぎ、土で埋めた。16 アビメレクはイサクに言った。「あなたは我々と比べてあまりに強くなった。どうか、ここから出て行っていただきたい。」17 イサクはそこを去って、ゲラルの谷に天幕を張って住んだ。18 そこにも、父アブラハムの時代に掘った井戸が幾つかあったが、アブラハムの死後、ペリシテ人がそれらをふさいでしまっていた。イサクはそれらの井戸を掘り直し、父が付けたとおりの名前を付けた。19 イサクの僕たちが谷で井戸を掘り、水が豊かに湧き出る井戸を見つけると、20 ゲラルの羊飼いは、「この水は我々のものだ」とイサクの羊飼いと争った。そこで、イサクはその井戸をエセク（争い）と名付けた。彼らがイサクと争ったからである。21 イサクの僕たちがもう一つの井戸を掘り当てると、それについても争いが生じた。そこで、イサクはその井戸をシトナ（敵意）と名付けた。22 イサクはそこから移って、更にもう一つの井戸を掘り当てた。それについては、もはや争いは起こらなかった。イサクは、その井戸をレホボト（広い場所）と名付け、「今や、主は我々の繁栄のために広い場所をお与えになった」と言った。23 イサクは更に、そこからベエル・シェバに上った。

24 その夜、主が現れて言われた。「わたしは、あなたの父アブラハムの神である。恐れてはならない。わたしはあなたと共にいる。わたしはあなたを祝福し、子孫を増やす／わが僕アブラハムのゆえに。」25 イサクは、そこに祭壇を築き、主の御名を呼んで礼拝した。彼はそこに天幕を張り、イサクの僕たちは井戸を掘った。

○はじめに

みなさんおはようございます。今日もみなさんと共に礼拝できることを感謝します。

先週は 76 回目の終戦の日を迎える日曜日でした。キリスト教会によっては 8 月第一日曜日を「平和主日」とするところがあります。またそうではなくても、8 月に平和を憶える礼拝をすることがあります。今日はそのような思いで、聖書を読んでいきたいと思うのです。

終戦から 76 年たって、戦争の記憶を持つ人も減ってきたのではないかと思います。私はちょうど祖父母が戦争中に青年時代を過ごした世代だったので、戦争の体験を聞くことがありました。父方も母方も祖父はどちらも兵隊で戦争に行った人でしたし、母方の祖母は東京の下町に住んでいたのです。東京大空襲を命からがら生き延びたという話を聞きました。

父方の祖父は陸軍の兵隊に徴兵されて、中国にいったそうです。足に銃弾を受けて、療養するために内地に帰ってきている間に、戦争が終わったと言っていました。私は高校生のとき学校のプログラムで中国に行く機会があった

のですが、そのとき祖父は、もう少し若いときに中国にもう一度いきたかったと言っていました。申し訳ないような、そんな気持ちがあることをポツリと言っていました。でもそれ以上詳しい話は聞くことができませんでした。中国の兵隊と戦った経験からの言葉からだろうか。色々な酷い光景を見てきたのかもしれない。そんなことを思い出します。

戦後 76 年、広島の大原爆、長崎の大原爆、大空襲、たくさんの日本人が犠牲になりました。でもそれだけではありません。私たちの国は、朝鮮半島の人たち、中国の人たち、東南アジアの人々に、大きな犠牲を強いたので。そのことを合わせて憶えることが、平和を憶えるときには大切なのです。

それはキリスト教会でも同じです。教会は戦争中は国によって弾圧を受けました。でも、同時に国に協力して、戦争に協力したという側面がありました。天皇を神とすることを、だましだまし受け入れてしまって、それに反対する人々を教会から追い出したりしました。みんなで献金を集めて、戦闘機を軍に贈ったりもしたのです。キリスト教会もある程度は積極的に戦争に協力したのです。正義の戦争だとみんな信じていたのかもしれませんが、そこにはイエス様の福音はなかったのです。教会にはそんな負い目もあることを忘れずにいたいと思うのです。

「平和を実現するものは幸いである。その人達は神の子と呼ばれる」。そうイエス様はいいました。しかし正義の戦争に加担することは簡単でも、平和を実現することは簡単なことではないのです。しかし私たちはクリスチャンとして、戦いではなく、平和を実現する道を求め続けていきたいと思うのです。

○聖書の物語から

今日の聖書箇所はイサクに関する物語でした。皆さんの中で、今日のイサクの物語をよく知っていたという方がおられるでしょうか。私は読んだことはあったはずですが、あまり注目してこなかった箇所です。しかしこうして読んでみると、不思議な魅力があります。そこには争いを避け続ける、イサクの姿があるからです。それで今日、こうして読むことにしたのです。

聖書の物語をみていきましょう。イサクはペリシテ人との間で井戸を巡ってトラブルになります。ペリシテ人は聖書に繰り返し登場する民族ですが、イスラエルの民と共に昔からこの地方に暮らす民です。それで繰り返しイスラエルとペリシテは戦いを繰り返します。

ただ、ペリシテ人とイスラエルの民は、棲み分けもありました。もともと、ペリシテ人はが海洋民族ですから、海沿いの町を拠点にしています。一方で、イスラエルの民は内陸で羊を飼ったり、畑を耕して暮らしていたのです。時代によって、どちらかの民族が一時的に勢力を伸ばして、相手のテリトリーに近づくと戦いが起きたのです。イサクはこのとき、自分たちの暮らしていた地域に飢饉があったことで、ペリシテ人の土地に近づくのです。はじめこそペリシテ人とうまくつきあっていたイサクでしたが、やがて対立しはじめるのです。

ペリシテ人はイサクを追い出すために、イサクが利用していた井戸を埋めてしまいます。それはアブラハムの時代に掘られた井戸でした。たくさんのヤギや羊をかかえてい

たイサクにとって、井戸が埋められることは命に関わることです。イサクはそれでペリシテ人たちの土地から離れはじめます。ゲラル地方にも昔アブラハムが掘った井戸がある、それを頼りに井戸を掘り返すと、今度はゲラル人が来てイサクたちと争いになります。するとイサクはまた場所を移して、井戸を掘るのです。点々と移動しながら、イサクは井戸を掘り、ようやく井戸をめぐる争いが終わるので

○現実主義的なイサク

実は聖書の中でイサクの人物像が分かる物語はあまり多くありません。今日の箇所は数少ない、イサクを中心にした物語なのです。そしてこの物語から、イサクの姿が少し見えてくるように思うのです。みなさんはイサクをどんな人だと思ったでしょうか。

私はイサクという人は、現実主義的なところがあるように思いました。あまり勇ましくは見えないし、情に厚く、夢見がちで、理想を追求する、そんな人には見えません。アブラハムは神様の幻を見て、目的地もわからないままに旅立つような、どこかロマンティックなところがあります。でもイサクはそうではないのです。ずっと現実的で、そして何より目的のためには、忍耐強く諦めない、そんな人に見えるのです。

先週の聖書箇所で、イサクは長男エサウの狩りの獲物が好きだったという話がありました。少しネガティブな言い方をしたように思いますが、それも現実的なイサクの性格の現れだったのかもしれませんが。

アブラハムゆかりの井戸であっても、また自分たちが苦勞して掘り当てた井戸であっても、あっさり手放してします。普通なら、もっとその井戸にこだわりそうだと思うのです。アブラハムが井戸を掘った場所は、神様から約束された土地なのだから、そこを絶対に守り抜く、そんな話の展開もありそうです。でも、イサクはそうは考えません。争いになりそうになるとあっさり手放して、また他の場所で井戸を掘るのです。

○平和を作り出す

イサクは何を考えていたのだろうか。イサクは何を大切に思っていたのだろうかと考えているのです。イサクは父アブラハムゆかりの場所を守る気はないのです。また自分の苦勞して得たものにこだわりもしません。もしかしたら戦ったら勝てるかもしれないけど、戦いもしません。イサクのこだわりは違う所にあるのです。

イサクがこだわったこと、それは自分や家族、使用人、それに家畜たちが、安心して水を汲める井戸を得ることなのです。そんな命の水を求めて、井戸を掘り続けました。井戸が奪われて、闘いになっても、彼は戦いません。なぜなら戦えば必ず犠牲が出るからです。イサクは自分たちの力を過信したりもせず、またその土地の歴史や由来にこだわりもしません。ただ、自分たちの命が守られること、命が繋がるために、井戸を掘って行くのです。そして争いがなくなるまで、掘り続ける粘り強さによって、平和な場所へとたどり着くのです。

私はイサクはあまり存在感のない人で、父親としても、息子をちゃんと愛せない人、のように思っていたのですが、この箇所を読んで印象が変わりました。こんな風に争いを

避けて生きることがなかなかできないと思うからです。そしてこのような生き方は、平和を作り出すために一つのヒントのように思うのです。

○平和の道を

「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる」。それはイエス様の言葉です。

私たちは、相手よりも強い武器をもてば、守られると考えがちです。相手より強くなくても、同じくらいの力を持たないと、自分たちを守れないと考えるのです。力の均衡で平和が実現するという考え方です。

しかし、聖書の教える平和というのは、どうもそうではないのです。イサクは戦うことを頑なに避け、点々の井戸を掘り続けました。それは、剣を取らない生き方です。そんな風にして平和は作り出されるものだと言っているのかもしれませんが。神様は、平和を作り出すことはできるし、そのために武器はいらないと言っている。しかしそのためには、イサクのような粘り強さが必要です。そして、人の命を犠牲にして目的を達成する、そんな考え方から解放されなくてははいけません。

それは決して簡単なことではないかもしれませんが。しかし、イエス様の十字架と復活によって新しい命を生きる私たちは、簡単ではなくても祈りつつ、そんな平和を実現する生き方をしたいのです。人の命を犠牲にしないで、ともに行きっていくための道があることを信じたいのです。そして、この世界の中で、この国の中で、そして私たちの間で、争いがなくなるそのときまで。

祈りましょう



<p>池田バプテスト教会 〒563-0027 池田市上池田 1-2-25 Tel 072-751-9853 礼拝 毎週日曜日 10:30-11:30</p>	<p>北豊中教会 〒560-0056 豊中市宮山町 3-19-33 Tel 06-6854-8038 礼拝 毎週日曜日 15:00-16:00</p>
<p>礼拝の様子は各教会のFBページにてライブ配信しています。一週間程度は録画を見ることができまので、御覧ください。</p>	